

スポーツと保険～スポーツ安全保険の問題～

sports and insurance ~problem of sports safety insurance~

1k08b507-4 森本祐貴

指導教員 主査 宮内孝知 先生 副査 倉田秀道 先生

【研究の動機】

スポーツと保険をテーマにした動機は、スポーツ安全保険の加入者が減っている理由が一体なぜなのかという疑問を解消したいと思ったからである。スポーツと保険をテーマにしたときにスポーツ安全保険協会の存在を知った。スポーツ安全保険協会の職員とのインタビューで、スポーツ安全保険の加入者が右肩上がりで増え続けてきたのが、ここ5年前から加入者が減り続けていると聞いたことがきっかけである。

【各章の要約】

第1章では、「日本国民の保険への加入率は高くニーズがあるのにも関わらず、『スポーツ安全保険』の加入者が減っているのはなぜか」という問いを立てた。設定理由はインタビュー時に疑問を持ったからである。

第2章では、第1章で立てた問いに対して「スポーツをする人のスポーツ強度が下がっているからである。また、保険へのイメージの悪化により、スポーツ安全保険の加入者が減っているのではなか」という仮説を立てた。それは、日本の人口は減少しているが、健康志向が高まっている中でスポーツをする人は減少していないと考えたからだ。強度が低いスポーツを実施しているため保険へ加入しないことを明らかにした。

第3章では、今回インタビューを実施したスポーツ安全保険協会および、スポーツ安全保険の詳細について論じる。また、具体的な賠償例を列挙した。

第4章では、スポーツ安全保険が保険という大きな枠の中、どこに位置づけられているかを示した。順序としては保険の意義、次に保険の歴史や生命保険とは何か、損害保険とは何か、また生命保険と損害保険の違いを述べた。最後にスポーツ安全保険は損害保険の中に含まれることを示した。それは、スポーツ安全保険の補償が道具・ケガをさせた相手、自分が対象になるからである。

第5章では、日本国民の人口減少に伴い、するスポーツの人口はどうなっているのか、その中でどのようなスポーツの人口が多

いのかをグラフを用いて述べた。そして、それはなぜスポーツ安全保険の加入者が減少する理由になるのか、スポーツ安全保険協会から入手した資料により考察する。また、もう一つの仮説として立てた、世間の保険イメージが悪化しているのではという理由では過去の「失われた10年」というキーワードを下に、保険会社の経営破綻や保険金不払い問題について述べ、過去に保険会社が世間の人々に対して信用を損なう出来事があったことを明らかにした。

【結論】

スポーツ安全保険加入者の減少は一概に日本国民の人口減少が理由ではない。なぜなら、週1回以上のスポーツをする人は20年間に上昇し続けているからである。ただ、1年間のスポーツ種目別実施率を見ると最も実施率が高かったのは「散歩」で、次に高かったのが「ウォーキング」であった。これらから、するスポーツの強度が低くなっていることが分かった。つまり、スポーツをする人の多くが「散歩」や「ウォーキング」であれば、スポーツ安全保険へ加入しようとは思われないことが考えられた。生活で必ず行う、歩くという行為に保険をかけているのは全ての行為に対して保険をかけておかなければならないからである。

また、スポーツ安全保険は大人の加入率が低い。これは、保険金不払い問題によって保険のイメージが悪くなったことや保険の必要性を理解できていないからである。保険とは耳で聞く目に見えないものである。そして、使用できるのは万一時だけである。万一時、つまり1番欲している時に保険金不払い問題が起これば、保険に入ろうと思わなくなるのは必然である。

保険会社崩壊のことを、顧客が保険のことについて理解しようと努力をすることが大切ではないかと思う。両者の理解度の部分で、全ての問題は解消されるのではないかと考える。

スポーツ安全保険の加入者数が減っている理由はスポーツをする人の強度が下がっていることと、保険金不払い問題により、信用を無くしスポーツ安全保険の加入者数が減少しているからであった。